

“患者のために”を第一に

手術技術だけでなく、皆で情報を共有し考える。
成功は術者一人では成し遂げられない。

「普通ながら執筆の機会をいただき」女性の目線で“何を書こうかと悩みましたが、私自身が独身かつ子育て・介護・夫の世話も何もないため、いわゆる女性特有の内容に乏しいことをお許しください。

13年前に“35歳までに責任ある術者になる！”という漠然とした目標を立て、退局してでも外で勉強したい、と母校の医局へ申し出た時には「女だから、どうせそのうち心臓外科なんて諦めるだろ？」という空気を少なからず感じました。いざ出てみると、初めての女性部下・同僚に多少の戸惑いが当時の男性医師にはあったのですが、私に色気と可愛

げがないことも幸いして悪い意味での男女差は感じませんでした。“区別しても差別しない”“男女は同等だが同質でない”ということ、周りの皆さんが実践して下さったのです。

“あなたがどんなに必死で働いても、手柄を独り占めする間違っただボスの下ではダメ”。これは米国某有名企業女性CFOの辛口至言です。思い切って外へ出て、後にmentorとなる間違っていないボス達に巡り会えた私は幸運でした。手術技術だけでなく、“患者のために”を第一に皆で情報を共有し考え、成功は術者一人では成し遂げられないことを身体に沁み込ませてもらい、自分が手術にも教育にも責任ある立場となった今なお一層の重みを感じ感謝しています。

約10年の修行を経て母校医局のお膝元へ戻った今の私にボスはいません。最

初の目標は一応達成したので、自分が間違っていないボスになることが次の目標かつ恩返しでしょうか？困った時にいまだに私の相談にのって下さる信頼できるmentor達のような器を身に付けられれば良いのですが…

最後に、“女性心臓外科医”としての拙い経験と後悔を踏まえ、個人的に思うことを若手女性医師の皆さんへ向けて一言一言。「男性心臓外科医と比べると良くも悪くも第一印象が残りやすいので注意しましょう」「徹底でも出産を望むなら、若い時の自先のキャリアよりも優先しましょう」以上。



木村 知恵里
(群馬県立心臓血管センター 心臓血管外科第二部長)
[卒業大学・卒業年]
群馬大学医学部医学科 1999年(平成11年)卒業
[経歴]
1999年6月～2003年5月：群馬大学第二外科の派遣ローテーション(一般外科2年、麻酔科・ICU1年、心臓血管外科1年)
2003年6月～2006年3月：倉敷中央病院 心臓血管外科シニアレジデント(公募シニアレジデント第1期生)

2006年4月～2007年3月：新倉病院(鹿児島市)心臓血管外科(窪山由紀男先生(現・鹿児島医療センター心臓血管外科部長)に師事)
2007年4月～2013年3月：自治医大附属さいたま医療センター心臓血管外科助教(うち2010年4月～2012年3月の2年間は、開業施設のさいたま赤十字病院へ心臓血管外科部長として派遣)
2013年4月～ 現職

[趣味] ゴルフ、散歩、クラシック音楽鑑賞
[好きな言葉] 感謝